

# 経済・金融 フラッシュ

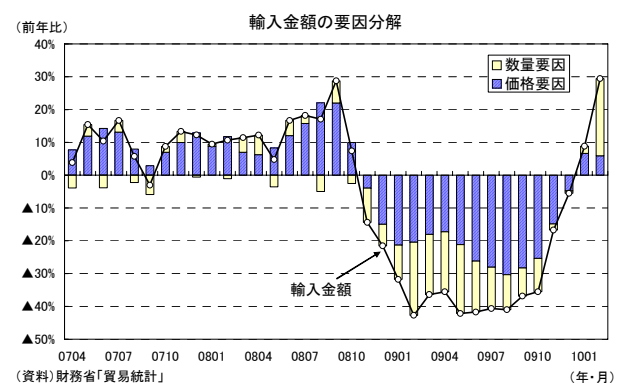
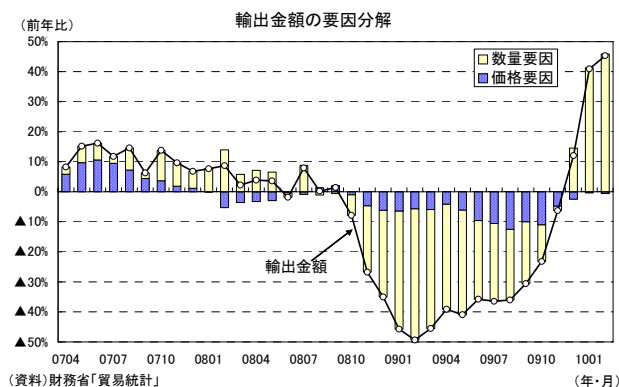
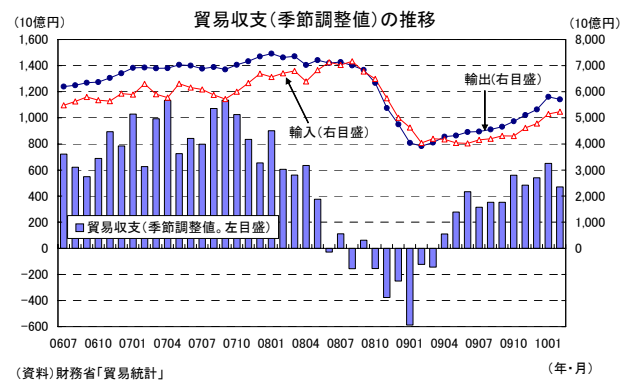
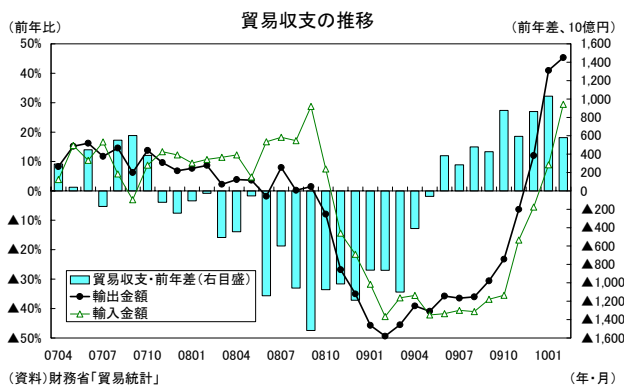
## 貿易統計 10年2月 ～輸出入ともに高い伸び

経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

### 1. 輸出入ともに高い伸び

財務省が3月24日に公表した貿易統計によると、2月の貿易収支は6,510億円の黒字となり、事前の市場予想（ロイター集計：5,500億円、当社予想は6,092億円）を上回った。貿易収支は9ヵ月連続で前年よりも改善したが、輸入の伸びが前年比29.5%（1月：同8.8%）と急速に高まったため、改善幅は前月から縮小した。輸出は前年比45.3%と前月（同40.9%）に続き40%台の高い伸びとなった。季節調整済の貿易収支は4,705億円と11ヵ月連続の黒字となったが、黒字幅は前月の6,511億円から縮小した。



輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比46.0%（1月：同41.3%）、輸出価格が前年比▲0.5%（1月：同▲0.3%）であった。輸入の内訳は、輸入数量が前年比22.9%（1月：

同 2.2%)、輸入価格が前年比 5.3% (1月：同 6.5%) であった。

## 2. リコール問題の影響は顕在化せず

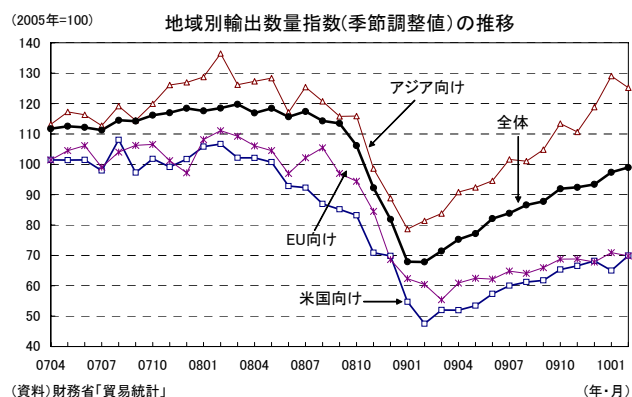
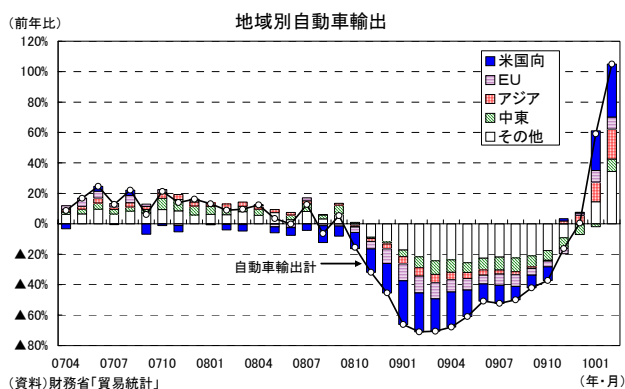
自動車輸出は前年比 105.0%となり、1月の同 59.2%から増加幅が急拡大した。米国向け (1月：前年比 128.4%→2月：同 129.9%)、EU 向け (1月：前年比 53.4%→2月：同 61.4%)、アジア向け (1月：前年比 128.3%→2月：同 163.6%) が引き続き高い伸びとなったことに加え、減少が続いていた中東向け (1月：前年比▲8.5%→2月：同 63.1%)、ロシア向け (1月：前年比▲0.5%→2月：同 242.2%) が1年4ヵ月ぶりに増加に転じた。トヨタのリコール問題による悪影響が懸念されていたが、今のところ自動車輸出に変調の動きは見られない。

2月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比 47.1% (1月：同 18.2%)、EU 向けが前年比 15.5% (1月：同 14.1%)、アジア向けが前年比 53.6% (1月：同 63.7%) となった。

季節調整値 (当研究所による試算値) では、米国向けが前月比 7.6% (1月：同▲4.7%)、EU 向けが同▲1.6% (1月：同 4.6%)、アジア向けが同▲3.0% (1月：同 8.6%)、全体では同 1.6% (1月：同 4.2%) となった。アジア向けの輸出数量が前月比でマイナスとなったのは、旧正月 (春節) の影響 (昨年は1月下旬だった旧正月が今年は2月中旬) で1月が強めに、2月が弱めに出ていることによるものである。1月、2月の平均は09年10-12月期よりも11.3%高い水準となっており、アジア向け輸出は基調としては好調を維持しているものと判断される。

輸入数量指数 (季節調整値) は前月比 3.9%と4ヵ月連続の上昇となった。1月、2月の平均は09年10-12月期を7.5%上回っており、輸入の増加テンポはここにきて加速しつつある。

輸出が景気の牽引役であることはこれまでと変わらないが、国内需要の持ち直しを背景に輸入の伸びも高まっているため、10年1-3月期のGDPベースの外需寄与度は09年10-12月期の前期比0.5%から縮小する可能性が高い。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。